

百人一首を覚えよう！ その1 (1～10)

1. 秋の田の かりほの庵の 苔をあらみ 我が衣手は 露にぬれつつ
(あきのたの かりほのいほの とまをあらみ わがころもでは つゆにぬれつつ)

(天智天皇 (てんじてんのう) (626～671) 第38代天皇
= 中大兄皇子 (なかのおおえのおうじ) 大化の改新) 「後撰集」

2. 春過ぎて 夏来にけらし 白妙の 衣干すてふ 天の香具山
(はるすぎて なつきにけらし しろたへの ころもほすてふ あまのかぐやま)

(持統天皇 (じとうてんのう) (645～702) 第41代天皇
= 天智天皇 (No.1) の第二皇女) 「新古今集」

3. あし引きの 山鳥の尾の しだり尾の ながながし夜を ひとりかも寝む
(あしびきの やまどりのおの しだりおの ながながしよを ひとりかもねむ)

(柿本人麻呂 (かきのもとのひとまる) 万葉集の歌人) 「拾遺集」

4. 田子の浦に うち出でて見れば 白妙の 富士の高嶺に 雪はふりつつ
(たごのうらに うちいでてみれば しろたへの ふじのたかねに ゆきはふりつつ)

(山部赤人 (やまべのあかひと) 万葉集の歌人) 「新古今集」

5. 奥山に 紅葉ふみわけ 鳴く鹿の 声きく時ぞ 秋はかなしき
(おくやまに もみぢふみわけ なくしかの こえきくときぞ あきはかなしき)

(猿丸大夫 (さるまるだゆう) 謎の人物) 「古今集」

6. かささぎの わたせる橋に 置く霜の 白きを見れば 夜ぞ更けにける
(かささぎの わたせるはしに おくしもの しろきを見れば よぞふけにける)

(中納言家持 (ちゅうなごんやかもち) (718～785)
= 大伴家持 (おおとものやかもち) = 大伴旅人の長男) 「新古今集」

7. 天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも
(あまのはら ふりさけみれば かすがなる みかさのやまに いでしつきかも)

(安倍仲磨 (あべのなかまる) (701～770) 遣唐使) 「古今集」

8. わが庵は 都の辰巳 しかぞ住む 世をうち山と 人はいふなり
(わがいほは みやこのたつみ しかぞすむ よをうちやまと ひとはいふなり)

(喜撰法師 (きせんほうし) 宇治の仙人) 「古今集」

9. 花の色は 移りにけりな いたづらに 我が身世にふる ながめせし間に
(はなのいろは うつりにけりな いたづらに わがみよにふる ながめせしまに)

(小野小町 (おののこまち) 平安の美女) 「古今集」

10. これやこの 行くも帰るも 別れては 知るも知らぬも 逢坂の関
(これやこの ゆくもかえるも わかれては するもしらぬも あふさかのせき)

(蝉丸 (せみまる) 琵琶の名手) 「後撰集」